

主題：キリストのからだの実際

メッセージ 2

神のエコノミーにおける最高峰——キリストのからだの実際に到達する

聖書：エペソ 1:22-23, 2:10, 15, 4:20-24, ピリピ 1:8, 19-21 前半, 4:11-13, ヨハネ 16:13

I. キリストのからだの実際は、「実際はイエスの中にある」（エペソ 4:21）、イエスの生活の真の状態であり、四福音書に記録されており、成就された神・人の団体の生活である彼の多くの肢体において複製されています——ヨハネ 14:6 前半, エペソ 4:20-24, ガラテヤ 2:20, ピリピ 1:8, 19-21 前半, 2:19-30 :

- A. イエスはすべてのことを神の中で、神と共に、神のために行なう生活をしました。神は彼の生活の中におり、彼は神と一でした。これがイエスの中にある実際です :
1. 主イエスは自分からは何も行なわず（ヨハネ 5:19）、自分の働きを行なわず（4:34, 17:4）、自分の言葉を語らず（14:10, 24）、自分の意志によって何も行なわず（5:30）、自分の栄光を求めませんでした（7:18）。彼はただ神に満足したので、決して失望しませんでした（イザヤ 42:4, 50:4-5, 53:2 前半, 参照、ヨハネ 4:13-14, 6:15, マルコ 9:7-8）。
 2. 主イエスは祈りの人であり、神と一であって、やむことなく神の臨在の中で生き、どのような苦難や迫害の下でも自分自身にではなく神に信頼し、この世の支配者であるサタンは彼の中で何もない（何の立場も、望みも、機会も、何における何の可能性もない）という方です——ヨハネ 10:30, 8:29, 14:30 後半, 16:32-33, I ペテロ 2:23 :
 - a. 彼は神聖で奥義的な領域の中で、奥義的な神に対する新鮮な祈りの中にあつた人でした。彼はしばしば山に行き、個人的な場所に引き込んで祈りました——マタイ 14:23, マルコ 1:35, ルカ 5:16, 6:12, 9:28。
 - b. 彼は決して単独ではありませんでした。なぜなら御父が彼と共にいたからです。あらゆる瞬間に、彼は御父の御顔を見ました——ヨハネ 5:19, 16:32, 詩 16:7-8。
- B. 主イエスは来て、命としてのご自身をもってわたしたちに仕えました。彼は過去わたしたちに仕え、現在わたしたちに仕え、将来わたしたちに仕えます——マルコ 10:45, ルカ 22:26-27, マルコ 6:45-51, ヨハネ 10:10, 6:48, 8:12, 13:4-8, 18:7-9, ルカ 12:37。
- C. 神の喜びである唯一の命は、キリストが地上で生きた命の繰り返しである命です。キリストは地上で生きました。わたしたちは主によって成就されて神・人となり、自分の天然の命を否むことによって、最初の神・人としてのキリストの原型にしたがって、神聖な命を生きます——マタイ 11:29 前半, 17:5 後半, I ペテロ 2:21。
- D. 新しい人としてのキリストのからだの生活は、イエスの生活と全く同じであるべきです。イエスが地上で生きた方法は、新しい人としてのキリストのからだは今日、生きるべき方法です——エペソ 1:22-23, 2:10, 15, 4:20-24。
- E. わたしたちは団体の原型、からだの実際、神・人の命を生きる民となる必要があります。そのような原型は召会の歴史における最大の復興となり、主の再来をもたらします——マタイ 16:18, 啓 19:7-8。

- Ⅱ. キリストのからだの実際は、神のエコノミーにおける最高峰として、実際の霊です——エペソ 4:4 前半、ヨハネ 14:17、16:13、Ⅰヨハネ 5:6：
- A. この実際の霊は、手順を経た三一の神のすべてのことを、キリストのからだにおける実際とします。わたしたちの中の実際の霊は、わたしたちをキリストのからだの生活の実際、神聖な命による神・人の生活の実際に導きます——ヨハネ 16:13-15、ピリピ 1:19、参照、出 30:22-25。
- B. すべてに十分な神は（創 17:1、ピリピ 1:19）、わたしたちの霊の中に住んで一つのミングリングされた霊として結合された実際の霊として（ローマ 8:16、Ⅰコリント 6:17）、キリストのからだにとって手順を経た三一の神であるすべての秘訣です。キリストのからだの実際の中に生きるためには、わたしたちの霊を知らなければならず、用いなければならず、活用しなければなりません（エペソ 1:17、2:22、3:5、16、4:23、5:18、6:18）。
- Ⅲ. わたしたちはキリストを十分であることの秘訣、わたしたちのすべてとし、実際の計り知れない豊富な霊、キリストのからだの実際として享受することを、学ばなければなりません——ピリピ 4:11-13、1:19：
- A. わたしたちには今日があるだけで、明日はありません。今日、主の中に安息し、明日を彼に残しておくことは、思いを霊に付けることです（ローマ 8:6）。わたしたちの霊なるキリストは「わたしはある」、「今の」キリスト、「今日の」キリスト、神の現在の臨在であって、わたしたちの現在の必要に応じます（ヘブル 3:7、13、15、ヨハネ 8:58、出 33:11、14）。
- B. からだの肢体、すなわち「復活的である」ものとして、わたしたちはからだの中の、からだを通しての、からだのための主のあわれみを求めて主を見つめ、復活を享受するラザロのようにならなければなりません。彼は主の力の静かな証し、主の愛の証明、主の恵みの現れとなりました——創 2:22、ローマ 9:16、ヨハネ 12:1-3、9-11、参照、伝 9:4：
1. わたしたちは死んで、悪臭を放ち、冷たく、主から遠く離れていたかもしれませんが、なおもここにいます。わたしたちはここに座っているとき、何も行わず、何も言っていないかもしれませんが、主イエスがわたしたちを復活させたことを思い起こさせるもの、生ける証しです。ただこれによって神は栄光を得ます——ヨハネ 11:38-45、12:9-11。
 2. 復活は、すべてが神のものであって、わたしたちのものではないこと、神だけができてわたしたちはできないこと、すべては神によってなされ、わたしたち自身によってではないことを意味します。わたしたちが行なうのが不可能なことは何であれ、復活の領域に属します——Ⅱコリント 1:8-9、エレミヤ 29:11、コロサイ 1:27、参照、エペソ 2:1-6、12-13。
 3. 復活は、わたしたちが自分によって何もできないこと、ただ神の中で、神を通して行なうことができることを意味します。復活は、わたしたちにはそれができないこと、神が、わたしたちにとってすべてであり、わたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのためにすべてを行なう方であることを意味します——Ⅰペテロ 1:13、箴 13:12、エレミヤ 17:7-8、参照、2:13、イザヤ 57:20。

- C. わたしたちは日ごとに霊の中で主と接触し、最も豊富な恵みを予表する「天のバター」としての彼を享受し、最も甘い愛を予表する「天の蜜」としての彼を享受することを、学ばなければなりません。それは彼が復活の力としてのご自身をもってわたしたちを供給し、わたしたちが神の完全なみこころを選び、神に「イエス」と言い、サタンに「ノー」と言うためです—— 7:14-15. 申 32:11-14. 出 3:8. I ペテロ 2:2. 詩 119:103. 参照、I テモテ 1:14. I コリント 15:10. II コリント 5:14-15. 使徒 6:15:
1. わたしたちはキリストを、絶え間のない全焼のささげ物として享受して、わたしたちの絶対性とし、減少させられて灰となり、彼がすべてのことで唯一の方、無二の方となり、わたしたちはすべてのことで無とならなければなりません——レビ 1:16. 6:10-13. ヘブル 11:5-6.
 2. わたしたちは自分のすばらしい過去にとどまり（ヨブ第 29 章）、自分のみじめな現在にため息をつくのではなく（第 30 章）、造り変える霊の中で自分の喜びを維持し、霊を活用して主に感謝し、主を賛美しなければなりません——ローマ 14:16-17. ヘブル 13:15. 詩 100:4. 119:164. 116:12-13.
 3. 「わたしはわたしの喜びを維持していますので、どうか心配なさらなくてください。あなたもご自分に気をつけて、心の中で喜びに満たされることを願います」（1972 年 4 月 22 日にウオッチマン・ニーが獄中で義理の姉に書いた手紙から）。
 4. わたしたちはあわれみ深い方としての主と接触して毎朝復興され、「主イエスよ、あなたを愛します」と言わなければなりません。そうすれば彼に語り、彼の言葉を食べることによって彼を食べて彼を享受し、彼を生き、彼であるものとなることができます——哀 3:22-24, 55-56. 啓 2:4. 7. ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. エペソ 6:17-18.
- D. わたしたちは神の御前にへりくだって、ラオデキアの道、なまぬるさと霊的高ぶりの道、命の道を捨てて実際を無視することから救われなければなりません——啓 3:15, 17, 19-20. マタイ 5:3. イザヤ 66:1-2. ルカ 10:38-42:
1. ラオデキアとは、すべてのことを知っていても、実際において何にも熱心でないことを意味します。名においてはすべてを持っていますが、何のためにもその命を犠牲にすることはできません。わたしたちは主に求め、悩んでいて、みじめで、貧しく、盲目で、裸であることから救っていただかなければなりません——啓 3:14-17. 参照、ローマ 13:11-14.
 2. わたしたちは毎日代価を払い、御父の神聖な性質における金を買って神に対して豊富になり、白い衣を買って、キリストを生かし出すことによってキリストを着せられ、油塗る霊としての目薬を買って盲目をいやさなければなりません——啓 3:18.
 3. 主がわたしたちをあわれんで、自分をへりくだらせることで彼を生きさせてすべての兄弟を愛し、彼の言葉を守り、彼の御名を否まず、フィラデルフィアの道を取って彼の唯一の目的を満足させ、彼の栄光と彼の王国のためにわたしたちを彼の複製としてくださいますように—— 7-13 節。